

具体化の試み、専門家交え

洋上風力発電との共生が地域の現実的な課題になりつつある。産業・雇用の創出や観光資源としての活用に期待がかかる半面、日本には大規模な洋上風力発電所が存在せず、地域住民は漠然としたイメージしか持てないのが現状だ。佐賀県唐津市では、専門家の助けも借りながら、地域の思いを具体化しようとする試みが行われている。

人口約17万人で、佐賀県内の自治体として
地域と再エネ
新たな共生のかたち

洋上風力、託す思いは

インフラックス、唐津市で住民と対話



和やかな雰囲気の中で地域の思いが語り合われた昨年11月のワークショップ



松前 准教授

ワークショップの特別な実施に。ワークショップの特別な実施に。ワークショップの特別な実施に。

洋上風力発電の景観を生かしてマリンスポーツの中心地にする構想や風車をライトアップ

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

洋上風力発電の景観を生かしてマリンスポーツの中心地にする構想や風車をライトアップ

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

洋上風力発電の景観を生かしてマリンスポーツの中心地にする構想や風車をライトアップ

2番目の規模を誇る唐津市。再エネ海域利用法における「一定の準備段階に進んでいる区域」に指定されており、将来の洋上風力発電建設が期待される地域だ。唐津市沖の洋上風力発電を巡っては、関西電力やレノバが参入検討を表明している。再生可能エネルギーベンチャーのインフラックス（東京都港区、星野敦社長）もそのうちの1社として、事業化を目指している。

松前准教授は「ソーシャライズドベシオンデザイン」を専門としており、ポトムアップ型の政策形成を研究している。そこで重要となるのが、人の気持ちや欲求をどうくみ上げていくかだ。

「公の場だと遠慮して本音を出すことができず、望んだ方向にはいかない。いかに引き出せるかが、学生のスキルになっている」（松前准教授）。馬渡島漁業組合が参加したワークショップでは、「自分の思いを引き出されたのは初めてと話す人ばかりだった」（同）という。

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津市沖の洋上風力発電を巡っては、関西電力やレノバが参入検討を表明している。再生可能エネルギーベンチャーのインフラックス（東京都港区、星野敦社長）もそのうちの1社として、事業化を目指している。

松前准教授は「ソーシャライズドベシオンデザイン」を専門としており、ポトムアップ型の政策形成を研究している。そこで重要となるのが、人の気持ちや欲求をどうくみ上げていくかだ。

「公の場だと遠慮して本音を出すことができず、望んだ方向にはいかない。いかに引き出せるかが、学生のスキルになっている」（松前准教授）。馬渡島漁業組合が参加したワークショップでは、「自分の思いを引き出されたのは初めてと話す人ばかりだった」（同）という。

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津市沖の洋上風力発電を巡っては、関西電力やレノバが参入検討を表明している。再生可能エネルギーベンチャーのインフラックス（東京都港区、星野敦社長）もそのうちの1社として、事業化を目指している。

松前准教授は「ソーシャライズドベシオンデザイン」を専門としており、ポトムアップ型の政策形成を研究している。そこで重要となるのが、人の気持ちや欲求をどうくみ上げていくかだ。

「公の場だと遠慮して本音を出すことができず、望んだ方向にはいかない。いかに引き出せるかが、学生のスキルになっている」（松前准教授）。馬渡島漁業組合が参加したワークショップでは、「自分の思いを引き出されたのは初めてと話す人ばかりだった」（同）という。

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

唐津ライオンスクラブが参加したワークショップでは、人口減を地元の課題として捉える声が目立った。洋上風力発電設備の産業群形成や風車点検のためのドローン養成所建設など、事業に直結するアイデアだけでなく、

指摘する。参加者の意見として特徴的だったのが、諸課題への個別の対策ではなく、1つのまとまったプランを求めている点だ。参加者からは「トップクラスのものをつくってほしい」との思いが強く、松前准教授は「唐津の良さや人口減といった平面的な創造性を感じた」と話す。

は、世代間の意識の差も大きな課題となる。「若者も街を変えていきたいという思いは強いが、現状を変えていくのは上の世代。ただ、若い世代の気持ちに合わせられないと彼らはついてこない。両者をつなぐ必要がある」（松前准教授）

声を反映する 従来型の公聴会などの方式は情報が一方通行で、出される意見も限定的になりがちな傾向がある。洋上風力発電という国内では新しいタイプの再エネ開発にあたり、地域の声を反映する方法についても新たな視点が求められている。

地域の将来像に再エネが描き込まれるケースが増えている。地域は再エネに何を期待し、再エネは何をもたらすことができるのか。新たな共生のかたちを探った。（濱健一郎）